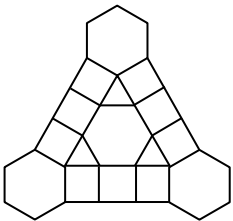


## 最難関問題

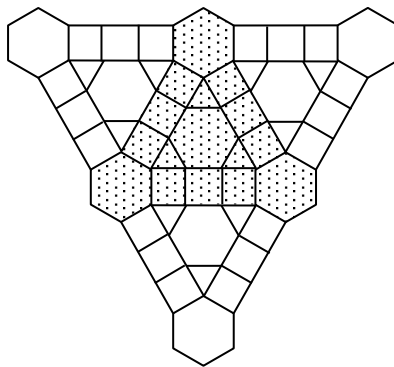
### 車輪模様のテッセレーション・1

下の図のように、1辺の長さが1 cmの正三角形、正方形、正六角形を組み合わせる1番目の図形とします。続いて、図形全体が正三角形の形になるように正三角形、正方形、正六角形を付け加えて2番目、3番目の図形を作っていきます。下の図では見やすさのために、2番目と3番目において1番目の図形にあたる部分に模様をつけています。

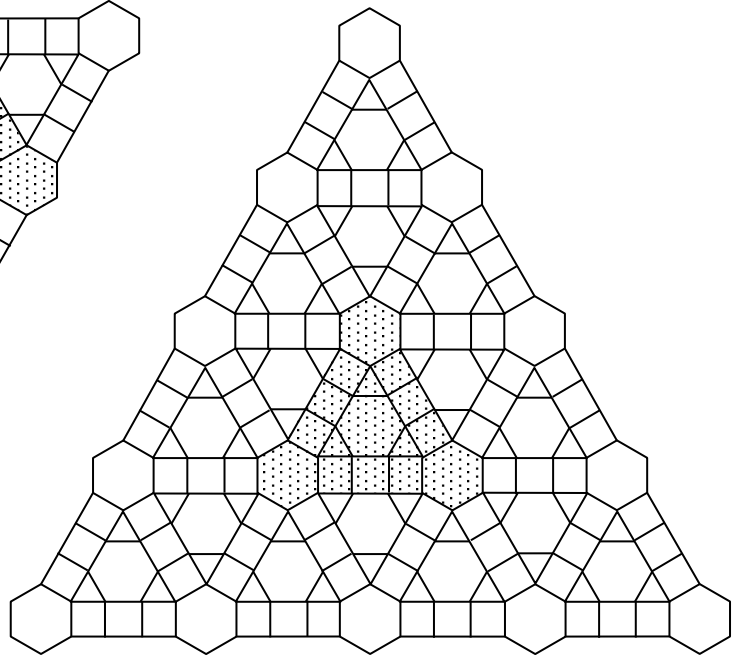
1 番目



2 番目



3 番目



- (1) 3番目の図形には、1辺の長さが1 cmの正三角形、正方形、正六角形がそれぞれ何個使われていますか。
- (2) 1辺の長さが1 cmの正六角形が24769個使われるのは何番目の図形ですか。また、その図形において正三角形と正方形はそれぞれ何個使われていますか。

## 最難関問題

### 車輪模様のテッセレーション・1

- (1) 正三角形…48個, 正方形…90個, 正六角形…31個  
 (2) 8番目, 正三角形…49152個, 正方形…74304個

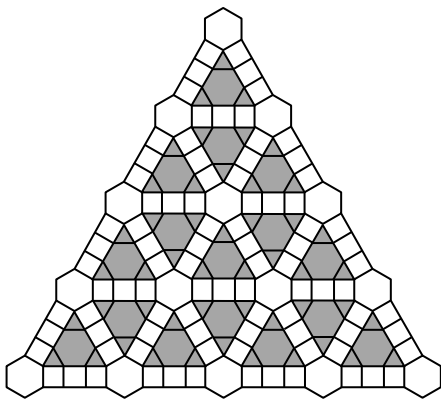
テッセレーションとは, 有限の種類 of 図形を平面に隙間なく敷き詰めることです。この問題では, 正三角形・正方形・正六角形を組みあわせて車輪のような模様を描きながら平面を敷き詰めています。また, 図形全体は正三角形形状の形を保って大きくなっていきます。

- (1) 1辺1cmの正三角形は図①の影をつけた大きな正三角形の中に3個ずつ入っているので,  
 $3 \times (1 + 3 + 5 + 7) = 48$  (個) です。

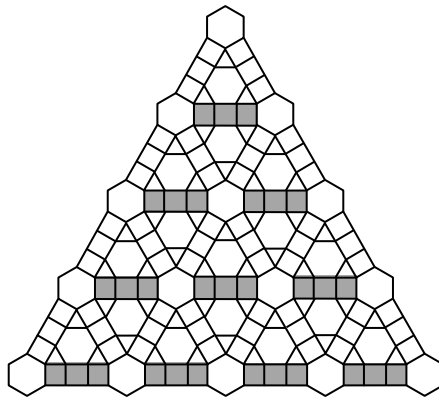
1辺1cmの正方形は図②の影をつけた長方形の中に3個ずつ入っています。影をつけた長方形と合同な長方形は向きを変えて考えると3倍の個数あるので,  $3 \times (1 + 2 + 3 + 4) \times 3 = 90$  (個) です。

1辺1cmの正六角形は図③の影をつけたものが  $1 + 2 + 3 + 4 + 5 = 15$  (個), 斜線部分のものが  $1 + 3 + 5 + 7 = 16$  (個) あるので,  $15 + 16 = 31$  (個) です。

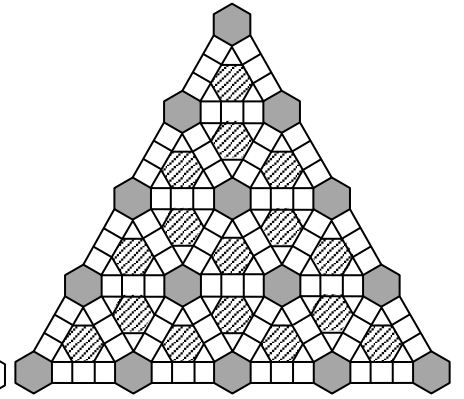
図①



図②



図③



最難関問題

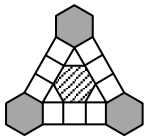
(2) 正六角形の個数について、図④、⑤の1番目と2番目の図形に戻って考えます。斜線部分の正六角形の個数は、1個、 $1 + 3 = 4$  (個)、3番目では $1 + 3 + 5 + 7 = 16$  (個)というように、1から始まる奇数を1個、2個、4個、…と加えた数になっているため、 $1 \times 1 = 1$  (個)、 $2 \times 2 = 4$  (個)、 $4 \times 4 = 16$  (個)になっています。続けると、 $8 \times 8 = 64$  (個)、 $16 \times 16 = 256$  (個)、…となり、結果的に毎回4倍になっています。

影をつけた正六角形の個数は、

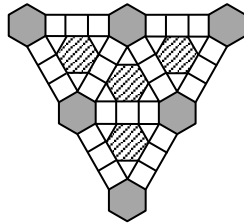
$$\frac{1+2}{2} = 3 \text{ (個)}, \frac{1+2+3}{3} = 6 \text{ (個)}, \frac{1+2+3+4+5}{5} = 15 \text{ (個)}, \dots$$

となって、1から始まる整数を2個、3個、5個、…と斜線部分の正六角形を求めるために加えた奇数の個数より1個多く加えています。続けると、 $(1 + \dots + 9)$  個、 $(1 + \dots + 17)$  個、…となります。

図④



図⑤



改めて(1)で考えた3番目の図形について考えてみると、正六角形の個数は、 $4 \times 4 = 16$  (個)、 $1 + 2 + 3 + 4 + 5 = 5 \times 6 \div 2 = (1 + 5) \times 5 \div 2 = 15$  (個) の和で31個なので、 $4 \times 4 + (1 + 5) \times 5 \div 2 = 4 \times 4 + (2 + 4) \times (1 + 4) \div 2 = 4 \times 4 + (4 + 1) \times (4 + 2) \div 2 = 31$  となっています。よって、4にあたる部分を□とすると、 $\square \times \square + (\square + 1) \times (\square + 2) \div 2 = 24769$  となればよいことになります。ここで大まかな数量関係を考えると、□が大きくなればなるほど、 $\square \times \square$  と  $(\square + 1) \times (\square + 2)$  の差は大きくなるものの、比は1 : 1に近づいてきます。よって、 $\square \times \square$  と  $(\square + 1) \times (\square + 2) \div 2$  の比はだいたい

$2 : 1$  くらいなので、 $\square \times \square$  が  $24000 \times \frac{2}{2+1} = 16000$  くらいになる場合を考えます。

$8 \times 8 = 64$  (個)、 $16 \times 16 = 256$  (個)、から続けて考えると、 $32 \times 32$  は900を超えるくらい、 $64 \times 64$  は3600を超えるくらい、 $128 \times 128$  が10000をそれなりに超え、 $256 \times 256$  は40000を大きく超えるので、

$128 \times 128 = 16384$ 、 $129 \times 130 \div 2 = 8385$ 、 $16384 + 8385 = 24769$  となります。よって、図形は8番目です。

このとき、正三角形の個数は斜線部分の正六角形の3倍なので、 $16384 \times 3 = 49152$  (個) です。正方形の個数は  $3 \times (1 + 2 + 3 + \dots + 128) \times 3 = 74304$  (個) です。